加茂里山通信（かもさとやまつうしん）

平成20年 新年号

発行　市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者・編集長
佐久間眞明

宝船プレゼント

読者の皆様へ

昨年の様子、今年はもっと賑やかに

今年は盛り沢山！

加茂里山通信も次号（平成20年春号）が記念すべき第20号目を迎えようとしています。読者の皆様には常日頃からのご愛読と温かいご支援をいただき誠にありがとうございます。

加茂里山通信では、今年も読者の皆様へ感謝の意を込めまして宝船プレゼントを実施いたします。今回は更に当選本数を増やし、内容も一段とグレードアップした賞品を加える予定です。

前回までの**松・竹・梅**の各「**大当たり賞**」と他「**お年玉賞**」7名に加え、今回は商工会議所加茂奉仕部からの協賛で1組「ん万円」相当の「**超目玉賞**」が3名様に当ります。

ここで改めて皆様にお知らせいたしますが、この宝船は他のどのプレゼント企画よりも当選する確率が高いということです。

昨年は当選本数10本に応募総数が30余名という「ゆる～い」関門でした。3～4名に1人がもらえるのです。中には2年連続で賞品をゲットした方もいて大感激！。今年も皆さん振るってご応募下さい。そしていろいろなご意見、ご要望をお聞かせ下さい。お待ちしています。

ご希望の方は、住所・氏名・電話番号と里山通信へのご意見、ご感想を添えて「宝船希望」と明記してハガキでご応募下さい。

宛先は〒290-0081　市原市五井中央西1-22-25市原商工会議所「加茂里山通信宝船プレゼント係」まで

〆切は2月5日（火）消印有効

当選の方には直接連絡いたします。

賞品の引渡し式は2月11日（祝）午前10時、月崎の商工会議所加茂支部にて行います。取りに来られない方は無効になりますのでご了承下さい。

あっ！それいい加茂

みんな活き活きお達者です！

西暦20××年朝。加茂小中一貫校の正門前に黄色をベースに山の緑や小動物をあしらった少し派手なバスが停車した。バスからはランドセルを背負った子供と制服に身を包んだ中学生が下りてくる。道路の横断を急ぐ黄色い帽子に詰襟の学生服を着た体格のいい男子が少し怒ったように注意している。制服の女子はそれを少したしなめ、黄色い帽子の手を引いて横断歩道を渡り始めた。

発車したバスの窓から手を振っているのは加茂地区運動広場に行ったり、併設された産直に野菜を運ぶジッちゃん、バッちゃんたちである。

「見てみろ、ちゃんと面倒みれっだな」

「普段うちにいちゃ、あんもやんねェのんな」

「ちいせェのもちゃんと言うこと聞いてっじゃんかよ」

バスの中の会話が盛り上がっていく。

「おらっ孫はこんだの野球の大会で県に行くダッチぞ」

「おらほっ隣の子は吹奏楽で全国大会タッチや」

「アジレンバトセイ時から練習しテッカンいいだっぺな」

「あんが、おせェる先生もいいだっぺや」

別の席ではこんな話も…

「コミュニティーバスが走ってどこいくンも便利になったっぺ」

「おっさ、市民病院もいっとき診療所になったりして心配したっけンが今じゃ指定管理者だかあんだか良くわかんねッケンがリハビリすっとこまで出来てっからなった」

「子供が学校行くのも心配しねェくていくなったしよ」

「ほっだよ、まえんにゃ送り迎えだったかんな」

さらに話は盛り上がる。

「おめェらが孫はこんだ大学だっ？どけェ行くだぁ」

「東京だっちョ」

「そっじゃよいじゃねっペ」

「あんが、おらが隣ン家ン家へ来たのがいっペェ」

「おっ、サラリーマン定年して東京から来たっち奴か」

「そんヤロがよ、世話にてくれたカン楽だったよ」

「そだっペなァ、普段畑や田んぼンことで世話やいてっかん」

「前にゃ畑も田んぼもやり手がいねェておいねったけんが、こんごろは市が面倒みて都会ンもんが来て趣味の園芸だかやってくれっかん、荒れたとこがねェなったっペ」

「おっさ、そんかわり野菜ン作り方まで教えてやンねっぱおいねけんがョ」

「でんが教えンのもなかなかおもしれっペ」

「そだなァ、後で一杯の楽しみもあっかンな」

「こっいやぁ、こんだ、山やっだ？」

「おっ、里山整備だか言ってっョ、臨海の会社ン連中とっちっ町会でやっだってっョ」

「猪にゃチットばかしかわいそだけんが筍やキノコ採り楽しみができっかンかんべんしてもらっペェ」

「そだなァ、まえンにゃ人より猪が多いなんて過疎だあんだって言われたケンが、わずか間に賑やかンなったもんだ」

「加茂が変わり始めたンは平成20年かンだっペナ」

「そうだ、そん頃かン加茂ン住民がみんなであんとかしねっぱなんねェと動き始めたかんな」

「やればできっだナ」

「そだそだ」

こんな会話を少しでも早く聴きたいものだと願いつつ・・・それいいかも。（大曽根里山通信員）

忙中閑話

話は去年の暮れの事です。

母親のメガネのフレームがゆがんでしまいました。どうやら寝ている間に身体の下に入ってしまって押しつぶしたようです。牛久のメガネ屋さんに持って行って修理をお願いしたら丁寧な仕事で直してくれたばかりでなく専用の洗浄器できれいに洗って返してくれました。修理代はおいくらです？」と聞いたところ、柔和な表情のお店のご主人に「いえいえ、これくらいの修理のお代は結構ですよ」との有難いお返事を頂いたんです。

時間と手間を頂いた以上は修理代を請求されるのが当然だと思っていましたからこれは意外でした。

自分の所の預貯金偽ったり公金と自分のお金の区別がつかなかったり、他人から預かったお金を勝手に使ってみたり、果ては隙あらば他人のポケットにまで手を突っ込もうとする輩が多い昨今。「ウチデ作らせて頂いたメガネですしまん真宗悪くなったらお持ちさいな」そっおっしゃるご主人のお顔のなんと上品だった事でしょう。

暮れの寒い午後に心まで暖めて頂いた嬉しい出来事でした。（鈴木里山通信員）

こんな夢を見た

「こんな夢を見た」

というのは黒澤明監督の晩年の作品「夢」の原題ですが、まさにそうとしか言いようのないものでした。どうしてそんな夢を見たのか今でもわからないのですが、昔どこかで見たあるいは何かの本か雑誌で見たのか、何かのフラッシュバックであったのか、ともかく起きる直前の夢であった上にかなり鮮明なカラーだったので強く印象に残っています。

それはこんなものでした。こちらが田舎の道沿いに歩いていくとその傍らに畑が続いています。その畑は、こちらが進んでいくと従って同じ程度の間隔で区切られています。そして畑にはそれぞれ畑仕事をする人がいます。傍らに腰を下ろす老人がいます。遊んでいる子どもたちがいます。つまり家族がみんなそこにいて穏やかに微笑みながら楽しそうに過ごしています。それは一家族ではなく連なる畑それぞれに家族がみんなそこにいて楽しそうにすごしている情景が続くのです。まるであちらの世界をかいま見てしまったような映像でした。どうしてそんな夢を見たのかまるでわからないのですが、自分がまだ小さかった頃、親と一緒に畑に行って遊ぶ子どもの姿はよく見かけました。小学校にあがる前に、少し離れた畑に家族みんなでサツマイモを掘りにいったことがありました。そのときの空の色、畑の様子、木陰でみんなでお茶をしたこと、畑で遊び回ったこと、それに帰り道の荷車の上で小型ナイフをいじっていたところ、通り過ぎた所にたまたまいた少し年上の男の子が「そんな所でナイフをいじってたら危ないよ」と注意してくれたことなどを鮮明に記憶しています。田舎のどの家でも家を空けるのに鍵などかけなくて、鍵をかけるどころか誰もいなくても障子など開け放したままになっていた頃のことです。また隣近所の稲刈りをみんなでやっていた頃のことです。

核家族化し大人も子供も何かと忙しくなってしまった現代では、家族みんな畑で一日を過ごすなどというのは夢物語のようになってしまいましたが、それでもそれはとびっきり贅沢な家族の光景に思えて仕方ありません。

最近ではクリスマスの頃になるとイルミネーションで家の周りを飾り立てるのがはやりですが、戸外に漏れてくる家族のそろった食卓の電球色の明かり一つにかなわないのではないかと思えるのです。（征矢里山通信員）

加茂米米くらぶだより

お正月はいかがお過ごしになりましたか。

小生、昨年同様元旦にはたまころがし、2日、3日には箱根駅伝をテレビ観戦といつもと変わらぬお正月を過ごしました。例年以上にお天気にも恵まれ、穏やかなお正月でした。今年一年家庭もそして日本も同様に穏やかに過ぎることを願っています。とはいえ、中央と地方の格差は更に広がりを見せ、政治の世界もなにかとこたごたがつづいているようで、先行きに不安を感じています。せめてこの加茂地区だけでもみんなが元気に過ごせる地域になってほしいと思っています。

それにつけても箱根駅伝は、どうして毎年あんなにも見ている人をわくわくさせ、感動をあたえてくれるのでしょうか。私には日本人が持っている感性のすべてがあの襷に凝縮されている様に思えてならないのです。区間区間は個々のマラソンという競技なのですが、終局的にはチームの勝利のため一本の襷をつなぎ、その想いはたぶん経験した者でしか解らぬさまざまなものが含まれているのでしょう。また、繰り上げスタート、シード権争い（8位、9位でガッツポーズ）にみる悲喜こもごも・・・こんなスポーツは他には類を見ません。もちろん全大学とも優勝をめざしてスタートしていくわけですが、往路・復路にそれぞれが全く予想だにしないドラマを形成し、五時間半があっという間に過ぎてしまいます。来年のレースをもうすでに待ちどうしく思ってしまいます。できればそんな想いのつまった襷をこの加茂地区にも引き継いで行きたいと、そんな想いの一部でこの里山通信にも参加しているのですが、みなさんに少しは楽しんでいただけているのかな。ぜひご意見等おたよりお送り下さい。

ぺっぺ語でーす

A「あんでんかんでん、みじけーすっぱ、いーてもんじゃねえっぺけんが、うちんむすめ（高1）元旦起きてくるなり「あけおめ！」つられて二男（中1）も「あけおめ！」ってまいっちまうだよ！」

B「しゃーねーなー、おらほ、昭和うまれんにゃわかんねーこっだっぺ。あんつったって、はーことしは平成20年、らいねんにゃ平成生まれが成人式だっぺ

A「はえーもんだなー！そういえば小渕さんだったなー「新しい年号は平成です」って。あれから20年かー・・・・」（戸沢里山通信員）

魚屋の戯言（ざれごと）

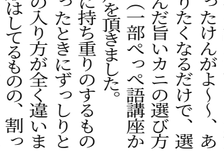
カニの美味しい季節はまだまだ続いてます。

というわけで今回も引き続きカニの話をさせて下さい。実は前回の記事を読んで下さった方から「カニの話は面白かったけんがよ～、あれじゃカニでいっぺえやりたくなるだけで、選び方がわかんねえよ。こんだ旨いカニの選び方を書いてくれっかいいよ（一部べっぺ語講座から盗用しました）」との声を頂きました。

カニを選ぶときは第一に持ち重りのするものを選んで下さい。手に持ったときにずっしりと重いカニは軽いものと身の入り方が全く違います。ひどいものはカニの形はしてるものの、割ってみると「あれれ、どこを食べるんだ」という事にもなりかねません。稀に腹部が傷だらけになっているカニがあります。これは身が入り過ぎたために自分の体重を支えきれなくなってお腹を引きずりながら歩いていた証拠なので見つけたら絶対のお勧めです。

かに

鮮度は匂いで判別して下さい。カニは本来は無臭なので獲れたてのものには独特のカニの匂いはありません。産地で水揚げされて市場などの流通経路を通ってくるのである程度の匂いは仕方ありませんが、あまり匂いの強いものは避けた方が賢明です。

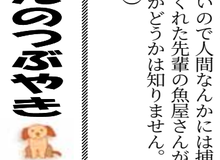


次に、殻の固さに注意してみましょう。殻を指で軽く押してみてぐにゃっとしたり簡単にへこんだりするものは脱皮してからあまり時間の経ってないカニです。こういうのは成長不足で身も入ってない事が殆どだと思って下さい。但し、脱皮直後の渡りカニなどはソフトシェルクラブなどと言って殻ごと食べて美味しいものもあります。これは召し上がる方のお好みにもよりますが一般的には身の味はオスの方が、子（卵）を楽しむならメスがいいとされています。オスとメスの見分け方はカニをひっくり返したときに腹部の真ん中が細いのがオス、太いのがメスなので比べてみるチャンスがあればすぐに見分けられると思います。越前カニ・松葉カニと言われるズワイガニは流通してるものの殆どがオスで、メスはコウバコガニやセイコガニと言われる違う名前で売られています。

最後のお楽しみはかにみそでしょう。残念ながら我々人間がみその本当にびっしり詰まった状態のカニを食べる事はできません。「みそをいっぱい持ったカニは頭がいいので人間なんかには捕まらないよ」と教えてくれた先輩の魚屋さんがいましたけど本当なのかどうかは知りません。（鈴木里山通信員）

産直おばちゃんのつぶやき

12月のある昼下がり、商品を売り尽くした産直おばちゃんは骨休めの為、関東を外れたひなびた温泉街を歩いていた。職業柄、早速直売所を見つけて



「あ、産直やってる、のぞいてみっかな」と興味津々で見に行った。

「へぇ～、やっぱりこっちはすごい舞茸だねぇ。おや！まだ自然薯が売ってる、結構立派だねぇ」そしてすかさず店主のお母さんに質問。

「この大きな舞茸は天然？自然薯もすごいね」

お母さんは「もちろん天然ですよ。こんなに傘も林も大きいんです。この辺の山は日本一ですよ。自然薯だってね、殆どの産地はハズレらしいけど、この辺だけはよく育ったんです。いかがですか？お安くしておきますよ」当然おばちゃんは「ひやかし」なので買わないが、まだまだ盛んに販売をしているお母さんを少し羨ましく思っていた。

その時、若いカップルの観光客が来店して、

彼女「あっ、おっきな舞茸と自然薯、すご～い」

彼氏「美味しそうだね、昨夜のA旅館のと全然違うな」**彼女**「舞茸はスーパーのみたいに味が無かったし、自然薯って言うけどコシがないしあれ絶対大和芋よ！」とご立腹です。それを聞いた**お母さん**「そうですか、困ったものですねぇ」と困惑の表情。と、そこへ別の**大学生が**「昨夜B旅館の舞茸と自然薯は美味しかったなぁ、香りもタップリ、自然薯のコシも最高だったけど、お母さん、B旅館の野菜はこれと同じ？」**お母さん**「そうですよ、B旅館さんはいつも私の野菜を使ってくれるから」**大学生**「そうですか、じゃあオフクロに買っていこう。舞茸と自然薯両方下さい！」**お母さん**「ありがとうございます。両方で2000円です。学生さん感心だからムカゴと梅干、サービスするね。お母さんに持ってって！」**大学生**「ありがとうございます。また春に必ず来ます」と言って帰っていった。

おばちゃん「へぇ、いろいろ大変ですね」**お母さん**「そうなんですよ、私達が一生懸命作って売っていても1軒の旅館がおかしな物を使うとそれだけで私達のイメージまで悪くなりそうで心配しているんですよ」

おばちゃんは他人事に思えず、神妙な気持ちで家路に向いながらつぶやいた。「この商売、何でも耳に入って来ちゃうから辛いところもあるよね・・」（頑張る産直おばちゃん）

加茂八景 みんな行ったか事あっかい？

市民の森（柿木台）

月崎にある市民の森、実は柿木台の住所であるのをご存知の方は少ないと思います。この約117haの雑木林に覆われた自然公園は、四季を通じて訪れる人達が絶えない市民の憩いの場になっています。春は新緑や花菖蒲、夏は紫陽花を愛で、またバーベキュー施設も整っていて夏休みなどは大いに賑わいます。晩秋には欠かせない紅葉スポットとして定着してきました。

幻想的なイルミネーション

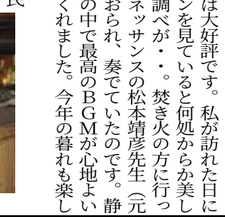
そして何と言っても最近の売りは12月のイルミネーションです。現在、市から管理を任されている「月崎安田美会（みかい）」の皆さんが始めたもので、その幻想的な景色を市内外から見に来る方が絶えず、多い日には一晩に400人余りの入場者がありました。さらには焼き芋を焼いた熱を利用した足湯がオープンして、来場者には大好評です。私が訪れた日にイルミネーションを見ていると何処からか美しいマンドリンの調べが・・。焚き火の方に行ってみると市原ルネッサンスの松本靖彦先生（元加茂中教諭）がおられ、奏でていたのです。静寂と幻想的な光の中で最高のBGMが心地よい時間を演出してくれました。今年の暮れも楽しみです。

この様に市民の森は地元の皆さんの手づくりの盛り上げで支えられています。そしてどの季節でも温かな風が流れているようです。

市民の森（96）1119

【資料提供相川孝夫氏】（佐久間里山通信員）

ほっかほか「足湯」


大人気の焼き芋

情報提供・取材依頼はお近くの通信員へ

メールでも受け付けます

尚、紙面及び記事に関するご意見・お問い合わせは、市原商工会議所　市原市五井中央西1-22-25

TEL0436(22)4305　担当　北まで

Eメールアドレスは

kita@cci.ichihara.chiba.jp

HPアドレスhttp://www.yo-ro-kadoya.co.jp/kamosei renbu

次回春号は4月20日発行予定です

里山からの発信

食の話から

蕎麦屋を探す

車で遠出したり旅に出たり、また何かの用で東京に行ったりしたときの楽しみはおいしいものを食べることです。店を選ぶということも楽しみで、当たることもあれば外れることもあります。

車で出かけた時にお昼に食べるものは決まって蕎麦です。関東近県から長野福島あたり迄はみんな蕎麦圏なのでその日いかにおいしい蕎麦屋を探し、いかにおいしい蕎麦を食べるかということが重要な行動指針になります。まず蕎麦屋を探す方法ですが、最低限看板に手打ちの文字が書かれていること、さらに石臼引きなどの文字が入っていたらこれはかなり当たりの可能性が高くなります。

さらにその手打ちの文字の次に蕎麦を強調しているのかうどんを強調しているのか、はたまた蕎麦とうどんの両方を強調しているのかも判断材料になります。また外から見る蕎麦屋の建物や周りを含めた全体の雰囲気も重要な要素を占めます。さらに重要な要素を占めるのが地元の人の声です。戸隠のように街道中蕎麦屋だらけという地帯に行った時などは、地元の人の声というのは決め手となります。昨年の5月に戸隠に行って泊まったのですが、宿のご主人とそこに来ていたもう一組の地元に住む夫婦の方と食後に焼酎を飲みながら話は自然心蕎麦談義に。昼に食べた蕎麦屋のことをまず聞かれ，戸隠の蕎麦の値段はどうか，量はどうか問われ、そんなこんなをひとしきりやったところ「あそこは前の所でやっていた時はよかったが街道に出てきてからは味が落ちた、今ならあそこがいい」などと、実に細やかな最新情報を教えてくれました。そこ迄聞いたら行くしかない。街道から少し外れた所にあるその店の結果は上々。つや、こし、やや控えめな香り、食感、たれと文句のつけようの無いものでした。

居酒屋を探す

年に何度か夫婦で東京に出て小劇場の芝居を見ることがあって、芝居の余韻に浸りながら居酒屋を探すのも楽しみです。友人と東京で会う時もやはりいい居酒屋を探します。実際には入ってみなければわからないのですが、まずどんな酒を置いてあるのかに注目します。酒にこだわるような店はほとんどと言っていいほど肴にもこだわりがあるからです。この逆は必ずしも正ならずで、肴にこだわりがあるからと言っていい酒があるとは、階段を下りていったところの店の入口隣に大きなガラス戸の冷蔵庫があり、そこに一升瓶の生の吟醸酒、大吟醸酒が何本も入っていました。それだけでその店がおいしい料理を出すことが確信できました。そこに並んでいる選び抜かれた酒の銘柄、生酒をきちんと冷蔵庫で管理していること、そういうことに神経を使っていること。そういう店が料理に手を抜いているはずがないからです。案の定、お新香から煮物、お造り、おにぎり、みそ汁に至る迄っさいの手抜きのないものでした。それからはそこが友人と行く定番の店になりました。

食堂を探す

では普通の食堂ではどうか。これは外見からは判断しづらいものですが、ラーメン屋を探すのと一緒で昼時にいかに車が多く止まっているかという単純な判断がいいようです。しかし、そこが本当においしいかどうかはご飯とみそ汁がおいしいかどうかにすべてがかかっていると思います。学生の頃から今に至るまで、おいしいと記憶にあり強く印象に残っているものは、いい米をしっかり研いで、おいしい水でちょうどいい水加減で炊かれた飯と、昆布や鰹などできちんと出汁を取り、おいしい味噌をとき入れて、決して煮詰めたりせず味噌が生きたままの味噌汁をだしてくれた店です。そのおかずがトンカツであったか煮物であったか焼き肉であったかの記憶は定かでなくても、ご飯のおいしさの記憶はいつまでも残ります。ご飯と味噌汁に神経を使っているような店は他の料理にも細やかな神経がそそがれて手抜きがないと思えます。逆にどんなおいしおかずでもご飯がおいしくなかったら印象の悪いものになってしまいます。食べ物屋はこの二つが決め手なのではないかというのは学生の頃に感じたことですが、今もそうだと思っています。

快感から行動へ

おいしいというのは快感です。快感は行動に駆り立てます。いい映画を見たあとは、なんとなくまたいい映画を見たい思うとそれが基準となって見たらそれが基準となって何とも言えない快感を味わったならさらにまたいろいろな山に登ってみたい。おいしいものを食べたらまたそこに行って食べてみたい。あの辺にはそういえばあの店があった。あそこにはあんな店があった。記憶に残るものがあれば人はまた体験したくなる。

ひるがえって

食を提供しているものの一人として、これらのことは肝に銘じておかねばなりません。こちらが選ぶということは、他から来るお客さんも同じような目線でこちらを選び値踏みをしているということです。そういうお客さんを満足させ、満足だけでなく感動させることが出来れば、また来てくれるはずです。味覚というのは脳に直結する感覚として記憶を刻んでいくような気がします。舌は正直なものでおいしいものは案外よく覚えているものです。ところで、どんな商売も信用を得る迄には不断の努力と時間を要しますが、その信用を落とすのは一瞬です。その落とした信用をまた獲得する迄にはさらに長い時間と努力が必要です。（昨年、内部告発によって次々と暴かれた食品の偽装によって、いくつもの老舗といわれる食品会社や料亭の信用が一瞬にして地に落ちてしまったのは記憶に新しいところです。）レベルを維持するというのは大変なことですが、手抜きをせず、自己満足に陥らず、お客さんの視点を忘れずに対応することが最低限必要なことでしょう。

多くの人がやって来る

加茂地区には実はかなり多くの人間が出入りしています。養老渓谷へのお客さんはある時期集中します。関東近県からゴルフに来る人や高滝湖に釣りに来る人は日常的にいて、年間にすれば相当数になります。加茂地区ではありませんが、すぐ隣の「ぞうの国」にも多くの人がやってきます。またあと2年位すれば田尾にインターが出来て圏央道がこちらの方にまで開通するはずです。そうなると車の流れや流入する人の数も変わってきます。アクアラインから直結してここまで来るのですから、東京、神奈川との距離はずっと縮まります。初めて来る人の数も増えていくでしょう。そうしてやって来る人たちの舌の記憶に残るようなものを提供できたら、小さな店でも活路は開けて来るのではないでしょうか。ことは食に限らず、産直で販売するもの、お土産品など、何か記憶に残るような工夫が施されればリピーターは増えていくと思われます。自宅と目的地を往復するだけでなく、この地の他の所にも足を向けていただき、利用していただくために、それにはそれぞれの工夫や努力の他に地域マップの制作と配布、宣伝も必要です。今年はその制作にも取り組んでいけたらと思います。

春はそこまで

まだまだ寒い日が続くでしょうが、里山を少しよく見てみると、草が少しずつ伸び、早咲きの梅の花の芽が膨らみ始め、菜花の黄色い花が見え始めています。幾度もくる春ですが、里山にはとりわけ春がよく似合います。

（征矢里山通信員）

加茂産の自然薯で焼酎試作

市原市自然薯生産組合では特産の自然薯を原料に焼酎の試作を行った。これまで「芋」として贈答品やお土産に好評を得てきたが、加工品としての可能性を試すために新しい特産品開発を目的に市の補助をもらい取り組んできた成果である。

初年度は原料として確保できた芋が少量のため一般販売するまでの量が生産できなく、試飲程度の生産にとどまったが　25度に調整された焼酎は、ほのかに自然薯の風味が味わえるなかなかの品質に仕上がった。

天候により生産量が左右される農産物であり、生産農家の高齢化など、これからの増産体制をどうするか、商品の流通などの課題もあるが加工品向けの生産の可能性ができたことで生産者の活性化を期待したい。

問い合わせはＪＡ高滝営農サービスセンター内の自然薯生産組合事務局℡（９８）０４１１まで。

（大筥根里山通信員）

がんばれ！青年団

高瀧友和会

高滝ダムの建設が始まり、高滝が新しく生まれ変わろうとしている昭和六十年（一九八五年）に「高瀧友和会」は発足しました。高滝地区に住む青年有志十八名が集まり、高滝にたくさんの人が来るようなものを考えようと活動を始めたのです。手始めに「桜を植えよう」と考えがまとまり、二百本近い苗木を加茂橋周辺とダム湖周辺に植え、その世話と管理を続けました。

今では、春になるとたくさんの見事な桜が私たちを迎えてくれます。

次に、「夏の夜空に大きな花火を打ち上げよう」とその趣旨を一軒一軒訴えながら地域住民、商店、会社、ゴルフ場を回り資金を集めました。初めてダム湖に大輪の花火を打ち上げた時は、会員一同大きな感動を味わいました。それまでの苦労が吹き飛んだのはもちろん、大きな自信につながったのは言うまでもありません。その後、この花火は市原市観光協会に引き継いでいただき、今では市民花火大会として定着するようになりました。多くの市民の皆さんに楽しんでいただいています。

現在は、会員数も二十五名に増え、高滝地区はもとより市原市南部の発展に寄与すべく活動を続けております。多くの他の会とも交流しながら、若者も老人も楽しめる高滝地区を目指していきたいと思います。

（高瀧友和会　平田忠雄）

市民花火大会

加茂の教育

これからの動向は？

町会関係者、小中ＰＴＡや各種団体の皆さんで小中一貫校を目指す会が設立され、加茂の子供たちの教育環境を考えて小中一貫校開設へ向けて活動を始めたこと、市原市学校規模適正化検討委員会の答申として行政の考えも一致していることを里山通信の前号でもご紹介しました。

昨年は青少年指導員の集会やＰＴＡの教育ミニ集会などでも、目指す会の方たちが詳細に地域の現状や5年後の予測　理想とする学校の姿などを説明する姿が見られ、質疑などを通じて活発な話し合いが持たれていました。

目指す会では実際に子供を持つ親、これから家庭を築く若い人たち、孫を送り出す祖父母の方々のご意見も広く集約したい考えで出張説明会も歓迎の姿勢です。

・小学1年生から中学3年生までが同じ場所で教育を受けることへの不安。

・通学範囲が広くなることで学校までの通学手段はどうなるのか。親の負担は。

・教育カリキュラムはどうなるのか。

・体格差が大きくなるので体育館やプールなどの施設や階段の段差やトイレの大きさまで変わると聞いたのだが。

等々、大切な子供のことだけに意見や質問はたくさん出ることでしょう。

地域に根付いた学校という施設や仕組みを変えていくことには潜在的に抵抗感もあることも理解できます。

しかし子供の成長は早く、1年1年が勝負です。年度ごとの区切りもありますのでタイミングを合わせることも考えなければなりません。私見ではありますが今年中には大方の流れを決めてしまわないとすぐに5年後は来てしまいます。

地域の皆さんの積極的な議論への参加を願うばかりです。

（大筥根里山通信員）

加茂地区運動広場建設へ前進

地域住民の生涯スポーツの振興と地域コミュニティーの活動拠点として、多目的な利用が期待される屋外スポーツ施設「加茂地区運動広場」整備に向けていよいよ事業が動き始めました。

事業予定地は本郷地先とされ、約3ｈａの面積で整備が予定されています。施設の主な内容は

①多目的広場として、サッカーや野球等のスポーツやイベント等に対応できる芝生広場と軽スポーツを楽しめる芝生広場。

②トイレ、休憩室、倉庫を兼ねた管理棟。

③50台収容予定の駐車場。

今はたき台としての案がようやく見え始め、今後は次のように事業が進行していくと予定されています。

平成20年1月　事業認定申請・物件調査委託。2月　地権者説明会。3月　事業認定・税務署協議。

平成20年度には実施設計・埋蔵文化財調査。21年度は敷地造成工事。22年度には施設整備工事が行われ、順調に進捗すれば22年度末には供用が開始となる計画です。すでに市内には4か所の運動広場が整備されていて、各地での年間利用状況は平成18年度集計として南総（S60完成）1万6千5百人。姉崎（S63完成）1万2千8百人。三和（H6完成）1万4千人。市津（H13完成）3万3千人。

はたして加茂地区の利用実態はどうなるのか？市民体育祭などの地元利用のほかに、高滝湖マラソンや夏の市民花火など大きなイベントを抱える地域だけに、多様な利用の仕方が考えられると共に地域住民の施設を生かす知恵も期待されます。

昨年末に体育指導員の主催で行われた「総合型地域スポーツクラブ」の説明会で各地の活動状況なども紹介されていましたが、多世代が多種目の運動を　個人の体力や技術レベルに合わせて生活の一部として楽しめるような環境作りができれば　体力づくりだけでなく、地域住民の交流や地域の賑わいづくりの拠点にもなる施設になるのではないかと大きな期待をします。

＊総合型地域スポーツクラブとは

スポーツを楽しむために地域住民の自主性と主体的、自治的な参加で企画、運営される組織で国の施策として進められている。これまでは学校体育や企業チームがスポーツの中心であり、どちらかといえば競技的な要素の強い、単一種目の、小規模型組織。これに対して総合型は多種目の障害者、子供からお年寄り、初心者からトップレベルまでの多世代が多目的に楽しめるように活動拠点の整備や指導者の養成、組織の運営を図ろうというもの。

（大筥根里山通信員）

三日月　車家健助

加茂の車窓から

明けましておめでとうございます。本年もまろしくお願い致します。

また1年間があっという間に過ぎてしまったのは、私だけでしょうか？十代、二十代、三十代と歳を老うごとに時間が経つのが年々早くなり、最近ではその間隔までが短くなって、三十五歳を過ぎたらまたた加速。そして現在三十七歳。まさか地球の自転・公転が年々速くなってしまったのでは？（笑）と思う今日この頃です。

加茂の皆さんはいかがでしょうか？新年を向かえ、今年はどんな目標をもって生活をしようか？などと考えたりもしますが、振り返ると昨年のお正月に考えた目標と同じだったりします。例えば“１００キロある体重を２０キロ減量して８０キロにしよう”とか、“小銭の貯金箱にして満タンにしよう”とか、“人間ドックに行こう”とか、私以外の人達からしたら“なんだ、それ。”“みたいな事ばかりなのですが、それがなかなか達成できず、お正月から一、二ヶ月過ぎた頃には、呼ばれたかのように私の腕は壷の中、壷に小銭は貯まらず、おいた時にはまたまた年末、そしてお正月。なぜか１００キロの体重が１０５キロ！２０キロ減量しても８５キロ。“リバウンドしながら四年間繰り返したら、２０キロ減量しても１００キロ、ただのデブ。小銭の貯金箱も紹興酒の入っていた大きい壷で、腕まで入ってしまう為、なぜかお酒を飲みに行く時には、呼ばれたかのように私の腕は壷の中、壷に小銭は貯まらず、おいた時にはまたまた年末、そしてお正月。なぜ量しても８５キロ。“リバウンドしながら四年なかの中に水分だけ？えっ糖分？が溜まっていってしまい、そのあげく、人間ドックに行くのが怖くなってしまうあり様で、目標どころか反省ばかりです。

しかし今年は、以上の様な自分についての目標はやめて仕事の中の目標にしよう、自分にではなくお客様に対してのことにしようと、そして昨年を振り返りいろいろと考えていたところ思い浮かんだことが、ある日私が、ある部品の修理を頼もうと初めて取引する会社の方に電話で頼んだところ、”保証で修理させて頂きます“とのこと、その部品を持ってその会社に伺い、”修理時間はどの位かかりますか？“と問うと”三、四時間かかってしまいます。“と言われ私は、それならば部品を預けて他の用事を済ませて、夕方取りに伺うことを約束し会社をあとにしました。そしてその用事を済ませ夕日も沈む頃、なんと道路は事故渋滞　一時間、そして二時間経っても数メートルしか車は進まず、時計を見ると午後七時、イライラしていると、携帯電話に部品の修理を依頼した会社から電話が入り”修理完了していますので。“そして私が、”事故渋滞でちょっと遅れてしまいますが、何時まで営業されていますか？“と尋ねると九時までならばお待ちしています。”私が“わかりました“と電話をきったのですが、車は一向に進まず、イライラしながら十分程の時間がたった頃、また私の携帯電話が鳴りました。先程の会社からでした。私はとっさに”おそらく九時まで間に合わないので会社を閉めて下さい。“と言うと”大丈夫です。それより先程九時までならばと言いましたが、お急ぎになってそれこそ事故でもされては大変です。九時を過ぎてもお待ちしていますので、ごゆっくり来て下さい“と、なんと私を気遣い電話をくれたのでした。感謝！感動！そしてこんな事から今年の目標は、自分の前に、自分の周りにいる人達に、ちょっとだけでも気を遣えるようにしようと思う、今日この頃です。皆さんも、そんなの関係ねぇ～はそろそろ飽きてきたのではないでしょうか？オッパッピー！！！！

（小茶里山通信員）

寒中お見舞申し上げます

市原商工会議所　副会頭　根本　巍
市原商工会議所加茂支部　支部長　征矢　吉之助
役員一同

その家は
フィンランドの
幸福論から。

HONKA
Todays homes.Naturally.
ホンカ　検索
ホンカ房総 太陽工業株式会社
市原市馬立414-1　Tel 0436-95-5641
www.honka-bouso.com

より豊かで快適な
社会環境づくりを目指して
人と環境をどこまでも大切に。実り多き未来へ、
杉田建材は、地域の皆様と共に歩み続けてまいります
杉田建材株式会社
本社ビル
市原支店
本　　社／〒290-0549 市原市万田野２６TEL0436(96)1311
市原支店／〒290-0023 市原市惣社１-１-２２TEL0436(24)0511
南総支店／〒290-0255 市原市牛久４５０-１TEL0436(50)0111
木更津支店／〒292-0065 木更津市吾妻２-７-２０TEL0438(25)4434